

(別紙様式 小中学校用)

平成22年度新しい職を活用した研究モデル校 研究報告書

学校名 四万十町立窪川中学校

学校長名 勝間 慎



1 研究テーマ

指導教諭として教頭と連携して学校全体が組織として機能するように調整する

2 研究内容

- 1) 新しい職を設置した組織体制の効果的な運営方法
- 2) 組織で取り組む授業力向上および学力向上対策
(校内研究テーマ: 生徒同士の「学び」の保障 ～「協同的な学び」を中心にして～)
- 3) 授業改善の深化と教員の資質向上

3 新しい職の配置による組織体制

- 1) 指導教諭の位置づけ
 - ・学校運営機構の教頭と横並びの位置に置き、企画委員会や運営委員会に参画する。
 - ・ラインの強化、明確化(校長→教頭→指導教諭→各主任・各教諭)を行う。
- 2) 校内の指導主事的な立場として
 - ・教員に対して授業方法の工夫・改善について指導・助言を行う。
 - ・研究主任として研究推進の中心になって、研究推進委員会等の組織を運営する。
 - ・校内研修の企画立案・運営、「協同的な学び」の研究を行う。

4 新しい職の活用状況

- 1) 学校運営参画
 - ・校長からのビジョンの伝達、基本方針の決定や課題等の情報共有の場として、企画委員会や運営委員会を定期的に開催し、中心的な役割を果たした。
 - ・校長・教頭とともに運営委員会に加わり、教育活動全体の状況把握を行い、課題解決に向けて取り組んだ。
 - ・各主任との連携を密にするとともに、役割を明確にして、指導・支援を行った。
 - ・座席配置を校長や教頭に準じた位置に配置し、全体に対して指示や指導を行った。
 - ・校内研修の企画立案・運営を行い、研究推進の中心的な役割を果たした。
- 2) 研究の推進
 - ・校内研修の企画立案・運営を行った。
 - ・研究主任として「協同的な学び」について学校全体で取り組んだ。授業研究部や家庭学習の取り組み状況を把握し、各主任とともに研究を推進した。
 - ・初任者研や2年次経験者研、若年サポート研の授業を参観して、授業方法の工夫・改善について指導・助言を行った。
 - ・近隣中学校や校区内小学校の公開授業や研究協議に参加し、研究・研修に協力した。

5 具体的な取組

1) 新しい職を設置した組織体制の効果的な運営方法

- ・校長・教頭とともに運営委員会に加わり、教育活動全体の状況把握を行い、課題解決に向けて取り組んだ。
- ・研究主任として「協同的な学び」について学校全体で取り組んだ。授業研究部や家庭学習の取り組み状況を把握し、各主任とともに研究を推進した。
- ・各主任との連携を密にするとともに、役割を明確にして、指導・支援を行った。
- ・校内研修の企画立案・運営を行い、研究推進の中心的な役割を果たした。

2) 組織で取り組む授業力向上および学力向上対策

(校内研究テーマ:生徒同士の「学び」の保障 ～「協同的な学び」を中心にして～)

- ・授業改善を行い、教職員の授業力をつけ、生徒の学力を定着・向上させるために、全教員参加による「授業研究部」と「家庭学習部」を組織した。
- ・管理職と研究主任、各部会の代表で『研究推進委員会』を組織した。研究推進委員会では、各部会の研究の進捗状況の把握を行った。
- ・「授業研究部」を中心に管理職を含む全教員が授業研究、全校授業研究(年間7回)と指導主事や講師招聘によるビデオ授業研究(年間5回)、自主公開授業(年間3回)を行い、授業を改善し、教員の授業力を向上させるように取り組んだ。
- ・「家庭学習部」は家庭学習マニュアルを見直したり、家庭学習アンケートを実施・分析したりすることにより家庭学習の定着に向け取り組んだ。また、家庭学習だよりを発行したり、家庭学習のテーマ学習(生徒自らがテーマを決め、調べてまとめたもの)にも力を入れた。
- ・OJTを効果的に機能させるために、全校授業研究において、各教員の授業における見取りなどの視点を明確にした。
- ・授業から見取ったことや学びを、各教員相互に評価や意見交換ができるように取り組んだ。

3) 授業改善の深化と教員の資質向上

- ・日々の授業観察を通して、授業力向上のために、各教員の授業を参観し(学期に1人1授業以上)、指導・助言を行った。
- ・初任者から3年次経験者を育成するために、事前・事後の教材研究や研究授業に向けての授業などを参観して、授業方法の工夫・改善について指導・助言を行った。(初任者指導教員との連携・協力)
- ・各学年で、休み時間などを活用し、生徒の見取りについて話したり、気になることなどを出し合ったりして、お互いの授業改善に役立て、教員の資質向上に取り組んだ。
- ・授業実践の教材分析への助言、指導の重点、教具等について支援・助言を行った。
- ・授業改善を効果的に行うために、授業の視点を明確にし、見取りや学びを互いに意見交換したり、相互評価し合ったりすることで、それぞれの教員の資質向上を図った。
- ・1年間に県外のべ11校・のべ19名、県内のべ4校・のべ8名が先進校視察を行った。先進校の公開授業や講演などの視察内容をレポートし、全教員に配布して全教員で共通理解を行った。また、参考になる取り組みを積極的に取り入れた。

6 研究の成果

- ・指導教諭が各教員に関わることで、校長の示す学校経営ビジョンの共通理解が図られ、組織的な授業研究や各部会の活動が活性化された。
- ・新しい指導体制により、各教員の授業改善に向けての向上心を生みだし、生徒の学力を高めることができた。「協同的な学び」を取り入れた授業を展開することで授業改善が推進され、学力は徐々に向上しつつある。学校生活全体において落ち着きが見られるようになった。
- ・年度当初に研究方法を全員で確認し、役割分担を明確にすることにより、研究が計画通りに実践することができた。生徒たちにつけたい力や授業改善の方向性を共有することができた。

- ・研究主任と授業研究部を中心に研究授業後の協議の仕方を決定し、「協同的な学び」のグループ活動を取り入れた協議を行った。各教員が、それぞれ授業テーマを決め、それを授業研究時に取り上げて、各教員の意識も高めるように工夫した。
- ・授業に関する意識調査でも「楽しい授業が多い」割合を昨年度10月の66%から74%(6月14日実施)に上げることができた。

7 課題の考察

- ・学校運営や教育課題に対して、円滑に対応できるように、それぞれの課題を提起したり、企画立案できる指導力を発揮することが大切である。
- ・校内研修を企画運営し、全体を総括し、取り組みを実践するためにリーダーシップを発揮することが大切である。また、全体を見通して、役割の明確化や役割分担を行っていかなければならない。
- ・「中1ギャップ」や不登校・別室登校の課題が残されているので、さらに研究・研修を深め、改善を図らなければならない。

学校運営機構

四万十町立窪川中学校

